

様式 3

平成 2 8 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立智頭農林高等学校  
 学校長 濱 崎 公 嗣

評 価 日	平成 2 9 年 2 月 2 0 日 (月)
委 員	4 名 (元中学校長、保護者代表、企業経営者、本校卒業生)
評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等
<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>概ね適正に評価されている。</li> <li>学校評価アンケートから、家庭学習時間の少ないことが気になる。この傾向は小・中学校でも同様。家庭学習＝基礎学力の向上であることを保護者にも理解してもらい、協力を求めているべき。</li> <li>挨拶をしない生徒が少なくない。町民が積極的に挨拶や声掛けをしていくことが必要ではないか。</li> </ul> <p>(2) 説明・公表について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし。</li> </ul> <p>2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県外（長野県や岐阜県など）の林業大学校へ本校（本校）の推薦枠をもらえるよう積極的なはたらきかけをしてはどうか。</li> <li>卒業生の進路先での様子を写真や体験談などで紹介してはどうか。学校の廊下など生徒の目に触れやすい場所に掲示することで、先輩の進路を身近に感じ、自身の進路意識も高まるのではないか。</li> <li>看護、医療系の上級学校に進学していることを中学校にもっとPRしていくべき。ものづくりの視点も大切にしながら中学生の進路ニーズについても考慮していくことが必要ではないか。</li> <li>従来の部活動だけではなく、授業の実習内容をサークル活動として放課後に実施してはどうか。生徒に学科を超えた活動時間を設けることで、放課後の時間帯を充実させることができるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習用のプリント教材などを準備・配布し、生徒が目的意識をもって学習できるよう工夫していく。</li> <li>来年度、県版SPHで兵庫県立森林大学校へ上級学校見学の計画がある。</li> <li>県版CAPも活用し、意欲ある生徒にチャンスを与えていきたい。</li> <li>来年度、4年制大学、医療系の進学指導については1年次から早めに受験指導にとりかかれるよう組織を見直す。</li> <li>藍染めなど授業内容を放課後に実施してはどうかという提案が地域コーディネーター等からも出ている。現在、検討している。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・智頭農林高校の部活動は、新体操部か郷土芸能部の印象が強い。小規模校なので他校のような多くの部活動は望めないかもしれないが、部活動が活発になってほしいという思いはある。</li> <li>・学校紹介ポスターは素晴らしい出来栄だ。県内外へのPR活動に活用してほしい。</li> </ul> <p>3. 取組改善のための提言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の「趣意書（智頭農林高等学校の存続に向けた町民会議）」を見て、県教委はどう考えているのか知りたい。智頭町が危機感をもって取り組んでいることに対して県教委はどのように考えているのだろうか。</li> <li>・統廃合して減らす方向だけでなく、どんな学校にしたのか、どんな生徒を育てたいのかを県教委として明確に示してほしい。</li> <li>・一般入試の志願者数が気になる。一人でも多く出願してほしい。</li> <li>・小学校は自己学習、中学校は課題学習という名称で家庭学習時間は毎日のように確保されていたが、高校ではないようだ。子どもは、言われたら勉強するが言われなければしない。国英数の3教科だけでもよいから宿題プリント等を出してほしい。</li> <li>・町内の調査結果によると、小中学校での宿題等の提出状況がよくないようだ。家庭学習においても小中高の連携が必要ではないか。</li> <li>・子どもの自尊感情が低い傾向にある。義務教育で十分育てきれていないのかもしれないし、ゆとり教育の反発も考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の特色や特徴をしっかりと示すことで存続に向けてアピールしていきたい。</li> <li>・地域との連携など本校の様々な取り組みの中で、少しずつではあるが、自尊感情や自己有用感を伸ばしたい。</li> </ul>
--	---